

よ り そ う

り は そ う

～麻生リハビリ総合病院だより～



左より) 中根事務部長、佐藤リハビリテーション科長、藤井看護部長、菅病院長、寺松統括医療技術部長
今年も何卒よろしくお願ひ申し上げます

「麻生リハビリ総合病院」は、法人内で『リハ総』という愛称で親しまれています。
『寄り添う』心を大切にする『リハ総』を、どうぞよろしくお願いいたします。



新年のご挨拶



～原点回帰～ あらためて医療・介護の質を磨き直そう！

新年明けましておめでとうございます。

地域の皆様におかれましては、健やかに新しい年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。旧年中は当院の医療・リハビリテーション活動に対し、温かいご理解とご支援を賜わり誠に有難うございました。

当院の病床数は180床であり、全病棟が回復期リハビリテーション病棟であります。川崎市の中では最も回復期リハビリテーション病床数が多い病院であります。回復期リハビリテーション病棟は、急性期治療（脳血管疾患、大腿骨近位部骨折など）が安定し、最も回復が見込まれる時期に多職種（医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、管理栄養士、社会福祉士など）でチームを組んで集中的なリハビリテーションを行い、社会復帰を目指します。

私たちは医療の質向上を目指し、日本医療機能評価機構という第三者機関が中立的に当院を「安全で質が高く、患者中心であるか」を評価する制度の中で、認定を受けております。急性期医療を終わられた方々が「その人らしく地域で暮らし続けること」を支える医療を使命としてまいりました。

しかし、その中で、病院長として強く考え続けてきた問いがあります。

——『私たちは、本当に人として向き合う医療ができているのか？』——

回復期リハビリテーション病棟には、身体の障害だけでなく、認知症やせん妄、不安、喪失感を抱えた患者様が多くおられます。医療者が「治す」「訓練する」ことに意識を向けすぎたとき、知らず知らずのうちに、患者様の尊厳や安心感を置き去りにしてしまう場面があるのではないかと。そのような自省が、私の中にありました。

そうした中で出会ったのが、※ユマニチュード®（Humanitude）です。

ユマニチュードは「見る・話す・触れる・立つ」という、ごく当たり前でありながら、医療現場では忘れられがちな人間的な関わりを体系化したケアの哲学です。私はこれを知ったとき「これこそが、回復期リハビリテーションの土台になるべき考え方だ」と強く感じました。 ※ユマニチュードとは、フランス語で「人間らしさ」を意味する造語です。

ユマニチュード導入の決断は、単なる新しいケア技術の採用ではありません。

それは、

- ・患者様を「治療の対象」ではなく「尊厳ある一人の人」として向き合うこと
- ・病院の効率は重要ですが、まず人の安心と信頼を優先すること
- ・職員一人ひとりが「どう関わるか」を自ら考える文化をつくること

ということを、病院として明確に選び取る決断でした。

現在、当院では多くの職種がユマニチュードを学び、日々の診療・看護・リハビリテーションの中で実践しています。患者様の表情が和らぎ、リハビリテーションへの意欲が高まり、「ここなら安心できる」という言葉をいただく機会が増えたことは、私たちにとって何よりの励みです。ユマニチュードの実践は、患者様のためだけでなく医療者自身が医療の原点を取り戻す道でもある、と考えています。そしてそれは、地域から信頼される病院づくりに繋がると確信しております。

最後に、当法人は6つの事業所（麻生総合病院、麻生リハビリ総合病院、訪問看護ステーション、居宅介護支援センター、ロイヤルホーム（有料老人ホーム）、健診センター）より成り立っております。今後も全事業所で協力・連携をさらに強化し、地域住民の方々に質の高い医療・介護・リハビリテーションなどをご提供出来ますよう、邁進してまいります。

皆様方に幸多い年になりますよう祈念しまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。今年も温かいご支援とご助言を心よりお願い申し上げます。

看護部

看護・介護の質向上に向けて

川崎市病院協会優良職員表彰式

当院より言語聴覚士の渡邊さん、事務職員の各務さん、看護補助者の神崎さんの3名が優良職員として表彰されました。会員病院の発展に努め、他の模範となり永年従事してきたことが称えられ、一緒に働く仲間としても喜ばしい表彰となりました。

看護補助者の神崎さん(前列左)は、勤続15年以上で介護福祉士資格を有しており、看護部のとても頼れる存在です。表彰された神崎さんにインタビューしてみました。



Q. 表彰されたお気持ちを聞かせてください。

A. 素晴らしい職員がたくさんいる中で、自分がいただいて良いものかと思えました。大変光栄に思います。ありがとうございます。

Q. お仕事のやりがいや当院の良さはどんなところですか？

A. 病院では患者様の状態は日々変わっていきます。患者様の心身の状態に合わせて、その日のケアを考え、実施していくところにやりがいを感じます。多くの職種と働いていますが、とても風通しがよく、働きやすい職場です。お休みも多く、しっかりとリフレッシュもできます。

Q. 今後取り組みたいことや頑張りたいことがあれば教えてください。

A. 仕事に役立つ資格の取得や勉強を頑張りたいです。

Q. 永年従事する中で、印象に残っていることや思うことはありますか？

A. この病院を選んでくださった患者様と出会い、ケアに関わらせていただいたことです。この仕事、この病院に勤めなければ得られなかった経験や出会いがたくさんあります。

この数年ではユマニチュードも学び、より人との関りが楽しくなりました。

これからの活躍も期待しております！ご協力ありがとうございました！！

勉強会「体位変換とポジショニングを学ぶ」

スキンケア委員会主催の勉強会として、褥瘡予防に重要な事(圧迫回避、ずれ軽減、蒸れ解消など)と最新のポジショニングケア(体位や姿勢を適切に調整すること)について、学びを深めました。

講師の看護師は、「患者様のケアに直接かかわる看護師・看護補助者・リハビリスタッフにとって、正しいポジショニングの方法は非常に大切な知識です。最新情報を共有し、スタッフのスキルアップにつなげたいです。」と話してくれました。

実技では看護師が患者役となり、これまでのケアと最新のケアの違いを実感していました。「ベッドを起こした後に背面の圧を逃し、ポジションを整えてもらうと、腰がとても楽になりました。患者様の体にかかる負担が全然違うことが分かったので、すぐにでも実践したいです。」と違いに驚いていました。

安心・安全な看護・介護を提供するためには、知識や技術をアップデートすることが重要です。時代の標準に乗り遅れることのないよう、一人ひとりが学び実践し、知識や技術を身に付けられるよう看護部全体としても取り組みを継続して参ります。



地域医療支援課

患者様・病院・地域を繋ぐパイプ役でありたい

いつでも頼れる存在に

地域医療支援課は、患者様が安心して医療を受けられるよう病院と地域をつなぐ橋渡し役を担っています。入退院手続等の窓口として急性期病院から入院相談を承ることから始まり、入院生活や退院後の生活に向けて、患者様の不安や心配に寄り添い、サポートを行っています。当院は回復期リハビリテーション病棟として、脳血管疾患または大腿骨頸部骨折（太ももの付け根の骨折）などの病気を脱しても、なお医学的・社会的・心理的なサポートが必要な患者様に対して、多くの専門職種がチームを組んで集中的なリハビリテーションを実施し、心身ともに回復した状態で自宅や社会へ戻っていただくことを目的としています。



地域医療支援課では、急性期の治療が終了された患者様がリハビリテーションを目的に当院へ転院される際の入院前相談、入院までの連絡調整を行います。また、地域の医療機関・介護・福祉施設と連携をとり、円滑に早期入院ができるよう努めています。

入院後は、リハビリテーションの計画をチームとして実践していく中で、患者様とご家族様が安心して入院生活をお過ごしいただけるように、社会福祉の立場から相談援助・社会資源の情報提供等を行います。

また、退院後の生活についても患者様・ご家族様と一緒に考えさせていただき、必要に応じて院内外で調整を行い、安心して次の生活へ進めるようご支援させていただきます。

どこまでも「寄り添う」医療を

各病棟のMSW（医療ソーシャルワーカー）が入院生活や退院後についての不安や悩みなど、サポートさせていただきます。私たちにお気軽にご相談ください！！

早期に専門的なリハビリテーションをスタートしていただけるよう、受け入れの調整を行っています。

信頼関係を築かせていただくことを第一に、患者様・ご家族様が住み慣れた地域で安心して退院後の生活を続けられるよう、様々な機関と連携しながら支援を提供いたします。

患者様だけでなく、ご家族様や他の医療機関等様々な方たちと関わることができ、結果、色々な角度から患者様と関わることができると思っています！

とにかく雰囲気良く、協力し合える部署です！

専門用語に偏らず、わかりやすくご説明いたします！



入院を希望される方は、お気軽にお問い合わせください

電話 044-981-6835 / 044-987-2203 (地域医療支援課直通)

受付時間 月曜日～土曜日（日曜・祝日を除く） 午前9時～午後5時

院外活動報告

専門性向上に向け、積極的に取り組んでいます

胸に響く出会いでした

9月に東京で開催された『第7回 日本ユマニチュード®学会』に参加し、『経鼻経管栄養の患者様がユマニチュードを用いた多職種連携により、常食経口摂取可能となった事例』について症例発表をさせていただきました。シンポジウムでは登壇された方々の熱意が伝わり、とても刺激的で面白かったです。ユマニチュードでは素晴らしいケアの技術について目が行きがちですが、ユマニチュードの哲学をもう一度学んだ上でケアを提供したいと感じました。

また、ユマニチュード提唱者のイヴ・ジネスト先生にもお会いし、素晴らしい講演に参加することができました。ユマニチュードケアの実践に向けて、より一層精進したいと思います。（作業療法士 酒井さん）



イヴ・ジネスト先生を囲んで

ユマニチュードに取り組む全国の病院や施設が集まり、組織全体で多職種が協働して取り組むことの重要性や考え方、工夫や悩みなどを共有し大変勇気をもらいました。（脳神経内科 保坂医師）

「HUMANITUDEおよびユマニチュードの名称およびそのロゴは、日本国およびその他の国における仏国SAS Humanitude社の商標または登録商標です。」

取り組みの成果を全国へ発信



2025年11月7日、高松市で開催された「日本作業療法学会」で、脳梗塞により自分の意志とは関係なく手が勝手に動いてしまう症状を呈した患者様への更衣訓練をテーマに発表しました。環境や動作の難易度を調整しながら訓練を行った結果、介助量の大幅な軽減がみられました。来場者の多くも同様の症状をもつ患者様を担当した経験があり、介入方法に悩んでいる様子でした。この症状は確立した介入法が少ないため、今後さらに効果的な支援方法を検討していきたいと感じました。また、発表では協力してくださった先輩や恩師とも再会でき、非常に充実した学会となりました。（作業療法士 緒方さん）

「日本作業療法学会」にてポスター発表を行いました。今回の発表では、廃用症候群と尿閉のため入院された患者様の「独居生活再開」を目指し、担当チーム・排尿ケアチーム・地域関係機関が連携して支援した取り組みを紹介しました。多くの参加者の皆様からご質問やご意見をいただき、大変貴重な交流の機会となりました。（作業療法士 佐々木さん）

地域活動

秋の恒例イベントに参加しました

地域の皆様とのふれあい



10月11日に開催された「第27回禅寺丸柿まつり」。

柿生が発祥の地である日本最古の甘柿と言われる禅寺丸柿。柿の収穫時期に合わせて毎年柿まつりが開催されています。

今年は「柿生駅前」「令和8年3月完成予定の尻手黒川線トンネル工事現場」2つの会場にて開催され、イベントの一つであるスタンプラリーのポイントに麻生総合病院と合同でブースを設置し、小さなお子様へ風船の配布等を行いました。

当日はあいにくの雨でしたがたくさんの方に足を運んでいただき、地域の皆様との貴重な交流の場となりました。

健康に過ごすためのアドバイスを提供

10月12日には麻生区役所前広場にて「第43回あさお区民祭り」が開催されました。

当院では麻生総合病院と合同で、昨年もお好評いただきましたInBody（体成分分析装置）を使用した筋肉量等の測定ブースを設置し、理学療法士が中心となりご参加された方々へ栄養状態・身体バランス等の分析を提供したり、運動療法についてのアドバイスを行いました。



資格保有者であるセラピストが院外で直接アドバイスを提供する貴重な機会であり、ご参加された方々の健康意識の高さを身近に感じる場となりました。

2023年発表『長寿日本一の町』である川崎市麻生区。このような活動を通して、当院はこれからも地域の皆様の健康を応援してまいります。

「ロコモ健診」のご案内

理学療法士による「ロコモ健診」をおこなっています

「ロコモティブシンドローム(通称ロコモ)」をご存じですか？

年齢を重ねると、筋力やバランス力が少しずつ低下していきます。放っておくと「立つ」「歩く」といった移動する運動機能が衰え、将来介護が必要になるリスクが高まります。

「ロコモ健診」は、当院の理学療法士が、ロコモ25の質問票、立ち上がりテストや2ステップテストから現在のロコモ度を測定します。さらに、歩き方のチェックなどを通して、身体のバランスや、筋力の状態も詳しく確認します。健診後は結果をもとに、「いつまでも健康で歩ける身体づくり」のための運動や、生活習慣のポイントを丁寧にアドバイスいたします。

今の自分の身体の状態を知ることから、健康づくりを始めてみませんか？

ロコモ健診
で
わかること

- ★今のご自身のロコモ度
- ★将来介護が必要になるリスクの目安
- ★バランス能力や転倒のしやすさの目安
- ★今後気をつけたい生活習慣や運動のポイント
- ★歩き方のくせや姿勢の特長
- ★ご自宅でできる簡単な運動のアドバイス



カウンセリング

「ロコモ25（質問票）」
による自己評価を確認



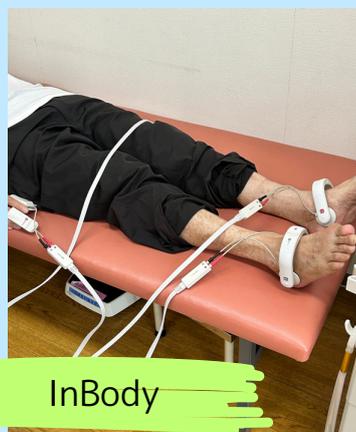
2ステップテスト

歩幅からバランス能力や
歩行能力を評価



歩き方チェック

歩行スピードや
歩行バランスを確認



InBody

体内の水分量や筋肉量や
体脂肪率を測定



立ち上がりテスト

片脚または両脚で座った姿勢から
立ち上がり、下肢筋力を測定



アドバイス

結果をもとに
運動や食事のアドバイス

「ロコモ健診」のご予約
お問い合わせはこちら

☎ 044-988-6832

3,300円（税込）

+ 栄養指導1,000円

受付時間：月曜日～金曜日（祝日を除く） 午前9時～午後4時 リハビリテーション科

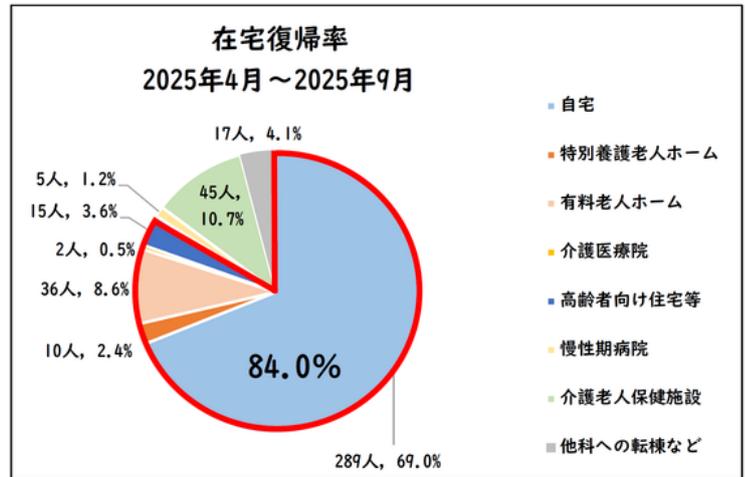
Information

直近6カ月（2025年4月～9月）の診療実績報告

回復期リハビリテーション病棟入院料Ⅰの実績要件		当院の診療実績
リハビリテーション実績指数	40以上	52.2
自宅等に退院する割合	70%以上	84.0%
重症患者の割合	40%以上	45.8%
退院時の日常生活機能評価4点（FIMI6点）以上改善割合	30%以上	71.0%

在宅復帰率（退院先内訳）

退院先	2025年4月～2025年9月	
	人数	割合
自宅	289人	69.0%
特別養護老人ホーム	10人	2.4%
有料老人ホーム	36人	8.6%
介護医療院	2人	0.5%
高齢者向け住宅等	15人	3.6%
慢性期病院	5人	1.2%
介護老人保健施設	45人	10.7%
他科への転棟など	17人	4.1%
合計	419人	100.0%
一般病棟への転院	27人	6.4%
在宅復帰 合計	352人	84.0%



入院を希望される方へ

当院へ入院を希望される方は、お気軽にお問い合わせください

☎ TEL : 044-981-6835 / 044-987-2203

受付時間：月曜日～土曜日（日曜・祝日を除く） 午前9時～午後5時 地域医療支援課

麻生リハビリ総合病院 公式Instagramはじめました！

7月より、麻生リハビリ総合病院単独のInstagramを開始しております。リハビリテーションの様子や院内活動・部署の紹介など、より当院の魅力を発信できるように活動してまいりますので、ぜひご覧ください。

下記のQRコードからフォローをお願いいたします！

Follow me!



日本医療機能評価機構認定病院

麻生リハビリ総合病院は

【日本医療機能評価機構】の認定病院です。

・本体審査 リハビリテーション病院

3rdG : ver.2.0

・高度・専門機能 リハビリテーション（回復期）

ver.1.0



麻生リハビリ総合病院 院外広報誌 第22号

医療法人社団 総生会 麻生リハビリ総合病院

〒215-0021

神奈川県川崎市麻生区上麻生6-23-50

TEL (044) 981-6878 / FAX (044) 981-6871



ASAO_REHA_HOSP
Instagram



ホームページ

発行者：広報委員会

発行日：2026年1月1日